

■ 社会情勢の変化

○ 社会の潮流

- ・人口減少社会への対応、少子高齢化対策
- ・加速するグローバル化への対応、国際競争力の強化
- ・巨大災害・多様化する災害への対策、インフラの老朽化
- ・エネルギーの制約、地球環境問題
- ・ICTの進歩、技術革新
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした、その後も見据えたまちづくり

○ 墨田区の社会情勢の変化

- ・人口、世帯数の増加、単身世帯の増加
- ・将来人口は平成42（2030）年頃をピークに減少と推計
- ・少子高齢化の進展
- ・外国人居住者や観光入込客数の増加

■ 上位計画の概要

○ 墨田区基本計画（平成28年6月）

【計画の特徴】

- ①協治（ガバナンス）を区の基本理念とした基本計画
- ②行政評価システム（施策の達成をはかる指標）を組み込んだ基本計画
- ③今後の公共施設等の整備を示した基本計画
- ④「**“夢” 実現プロジェクト**」を掲げた基本計画

○ 墨田区総合戦略（平成28年3月）との連携
 ・地方創生の観点から、墨田区が行うべき施策を抽出

- ◇「暮らし続けたいまち」の実現
- ◇「働き続けたいまち」の実現
- ◇「訪れたいまち」の実現

■ 基本計画の実現に向けたまちづくりの方向性

「暮らし続けたいまち」

○ 現行都市マス（抜粋）

- ・多様なニーズに対応した住まいの供給・誘導（P.87）
- ・緑に囲まれたまちづくり（P.92）
- ・水辺空間の再生によるアメニティ向上（P.69）
- ・建物の不燃化・耐震化の促進、密集市街地の安全性の向上（P.77、78）
- ・地域防災力・復興体制の強化（P.83）
- ・安全で快適な道路交通体系づくり（P.52）

○ 追加検討項目（案）

- ・次世代の育成につながる住環境づくり
- ・身近な生活や都市活動の拠点づくり
- ・持続可能な循環型都市づくり

「働き続けたいまち」

○ 現行都市マス（抜粋）

- ・商店街の活性化と連動した魅力ある商業空間の形成（P.99）
- ・ものづくりのまちとして蓄積した技術や技能を活かした高度な産業への転換（P.100）
- ・住工共存における環境配慮（P.104）

○ 追加検討項目（案）

- ・新たなビジネスが生まれ活発な交流が進むまちづくり
- ・企業と地域社会の連携による協働のまちづくり

「訪れたいまち」

○ 現行都市マス（抜粋）

- ・特徴ある産業観光の振興（P.101）
- ・歴史・文化資源を活用した景観づくり（P.96）
- ・東京スカイツリー周辺のにぎわいある景観づくり（P.97）
- ・東京スカイツリーを活かした回遊性のある観光ルートの形成（P.102）

○ 追加検討項目（案）

- ・安心してまちあるきを楽しめる国際的なまちづくり
- ・地域住民のまちへの愛着度を高めるまちづくり
- ・オリンピック・パラリンピック後の遺産（レガシー）の活用

■ 現行都市マス改定後のまちの変化

○ 土地利用、建築動向

- ・商業系、工業系土地利用減少の一方で、住居系土地利用増加傾向にある
- ・集合住宅の立地増加、特に南部地域で大きく増加し、区民の世帯数の約3/4は集合住宅に居住している
- ・高層マンションや3階建戸建て住宅の増加に伴う建詰まりなど、住環境の問題が危惧される

○ 道路、公園等

- ・北部地域の密集市街地の整備や駅周辺拠点整備等に伴う道路整備が進展しつつある
- ・平成20年以降、区立公園は3箇所整備されているが、区民一人当たりの公園面積は3㎡未満と小さい

○ まちづくりの状況

【主要推進プロジェクト】

- ・押上・業平（スカイツリー周辺）や曳舟駅周辺など拠点整備の進展
- ・押上駅～八広駅間の連続立体交差事業が完了
- ・両国駅から錦糸町駅周辺にかけて、公園整備や道路の景観整備等が進展
- ・鐘ヶ淵周辺地区において、鐘ヶ淵通りの拡幅整備が進展、地区懇談会でのまちづくり計画の策定
- ・京島地区において、道路拡幅整備や広場整備、コミュニティ住宅等の整備が進展
- ・密集市街地における不燃化等取組みが進みつつある